

ICD® クラター・クオリティ・オブ・ライフ・スケール（CQLS）

経緯

ICDクラター・クオリティ・オブ・ライフ・スケール（CQLS）はニューメキシコ大学のキャサリン・ロースター博士がICD®と協力して開発しました。

クラター・クオリティ・オブ・ライフスケール（CQLS）は、あらゆる面でクラターが及ぼす生活の質への影響について当事者の気持ちや主観的な見解を調べる自己評価ツールとしてICD®が開発および認可を行っています。CQLSを使用すると人間関係、精神的苦痛、クラターによる家計への影響、身体への影響について、あるいはウェルビーイングに悪影響を与え生活目標や日常生活に支障をきたすなどクラターが原因で困難になっている生活状態について評価することができます。CQLSは、Savings Inventory- Revised（貯蓄管理-改訂版、Frost, Steketee, & Grisham (2004) 開発）やSatisfaction with Life Scale（生活の満足度スケール、Diener (1985) 共同開発）など、その他の類似する多くのスケールとともに試験が実施されており、こうしたスケールとの適切な相関関係が証明されています。

2010年から開発に着手し、プロのオーガナイザーがクライアントと作業する際の手助けとなり生活の質に及ぼすクラターの影響について主観的に調べられるようなツールを開発しました。ロースター博士の生活の質の概念についての背景研究によると、生活の質を実際に評価するには（自己評価による）主観的ツールと（第三者による）客観的ツールの両方が必要だとされています。ICD® のクラター・ホーディング・スケールは客観的なツールとして、CQLSは主観的なツールとして、ホーディング障がい診断の目的ではなく、クラターが及ぼすウェルビーイングへの影響について各自の視点から評価するためのツールです。

スケール開発の初期段階では、クラターが起因する悪影響についてクライアントの視点を調査したフィードバックをICDのボランティアから集めました。こうした自由回答のコメントを元に初版のスケールを作成し、ICDのクライアント数名を対象に試験を実施しました。その後規模を広げて（n = 500）米国で一般を対象に試験を実施し、米国とカナダのサンプル1300件（内カナダは約30件）に対してCQLSの実地試験を行った結果、60以上の項目から18または11項目に簡素化しました。18項目あるスケールは家計への影響についての質問など詳しい内容になっているため、プロのオーガナイザーが使用する際にはさらに役立つでしょう。

CQLSはクライアントの生活のどの部分にクラターが影響し、どのように人の意欲に作用するのかをオーガナイザーが見極める際に活用できます。

CQLS：プロのオーガナイザーのためのツール

CQLSはプロのオーガナイザーにとってさまざまな方法で役立つとされています。

- 最初の面談で、クライアントへのクラターの影響を判断する
- クラター・ホーディング・スケールと併用してクライアントの状況について全体像を把握する
- オーガナイズの過程で進捗状況を確認する
- オーガナイズの過程の最終段階または状況維持を管理している際に次の段階が必要か判断する
- リソースとしてウェブサイトに掲載する（注：ブランディングに関する点はICDに確認が必要）

ICD クラター・クオリティ・オブ・ライフ・スケール

クラターは「過剰な所有物」と定義されますが、個人の生活やウェルビーイングにどのような影響を与えているでしょうか。

以下の文章を読み、各項目よりあてはまるものを選んでください。

スケール

全く 同意しない	同意しない	あまり 同意しない	どちらとも いえない	やや 同意する	同意する	強く 同意する
1	2	3	4	5	6	7

1. 他人が自分の家のクラターを見たらどう思うか心配している。
2. 家で何か作業をする際、モノを動かしてスペースを作らなければならない。
3. 家のどこに何があるか分からず、持っているものをまた買うことがよくある。
4. 自宅のクラターを見ると嫌な気持ちになる。
5. クラターのせいで、人を自宅に呼べない。
6. 自宅のクラターについてなるべく考えないようにしている。
7. クラターのせいで、各部屋のスペースを思うように使えない。
8. 自宅のクラターが原因で、家庭生活に支障をきたしている。
9. 自宅のクラター状態が手に負えないと感じる。
10. 自宅のクラターの量が心配の種になっている。
11. クラターのせいで、必要なモノを見つけることができない。
12. モノをたくさん買い過ぎて、返済できないほどの借金をつくってしまった。
13. 自宅のクラターについて考えると後ろめたさを感じる。
14. 家の中を歩くとき、モノにつまずかないように気をつけなければならない。
15. クラターのせいで、家の中でやるべきことが放ったらかしになっている。
16. クラターのせいで、家族や親戚を思うように自宅に招けない。
17. 請求書がクラターに埋もれて見つからず、3ヶ月間で2回以上支払いが滞ってしまったことがある。
18. 家のクラターを見ると気が滅入る。

スケールの概要

前項にあるスケールは、18（クレーターによる生活の質への影響は主観的に見て低い）から126（クレーターによる生活の質への影響は主観的に見て高い）の間の合計でスコアを決めます。混合グループ（例えば、クレーターの問題がある人とない人）を対象にした事前調査では標準偏差値38、平均値59という結果が得られました。米国の一般のサンプル（ $n = 500$ ）とICDのウェブページにこのスケールを掲載して得たサンプル（ $n = 220$ ）を対象に2箇所を繰り返してこのスケールの試験を実施したところ、スコアが分散する80%について一貫して説明がつく確定要素が判明しました。その18項目の強い信頼性により（クロンバックのアルファ（ α ） = .985）、重複している項目とスケールを縮約できることが示されました。

その後の研究で前項に太字で示されている11項目が18項目のスケールと同様の役割を果たすことと生活の質に影響を与えるクレーターの4つの側面について次のように明らかになりました。

住みやすさ

- 家で何か作業をする際、モノを動かしてスペースを作らなければならない。[CL2]
- クレーターのせいで、各部屋のスペースを思うように使えない。[CL7]
- クレーターのせいで、必要なモノを見つけることができない。[CL11]
- クレーターのせいで、家の中でやるべきことが放ったらかしになっている。[CL15]
- 家の中を歩くと、モノにつまずかないように気をつけなければならない。[CL14]

感情面

- 自宅のクレーターを見ると嫌な気持ちになる。(CL4)
- 自宅のクレーターについてなるべく考えないようにしている。(CL6)
- 自宅のクレーター状態が手に負えないと感じる。[CL9]
- 自宅のクレーターの量が心配の種になっている。[CL10]
- 自宅のクレーターについて考えると後ろめたさを感じる。[CL13]
- 家のクレーターを見ると気が滅入る。[CL18]

社会性

- 他人が自分の家のクレーターを見たらどう思うか心配している。(CL1)
- クレーターのせいで、人を自宅に呼べない。[CL5]
- 自宅のクレーターが原因で、家庭生活に支障をきたしている。[CL8]
- クレーターのせいで、家族や親戚を思うように自宅に招けない。[CL16]

経済面

- 家のどこに何があるか分からず、持っているものをまた買うことがよくある。(CL3)
- モノをたくさん買い過ぎて、返済できないほどの借金をつくってしまった。(CL12)
- 請求書がクレーターに埋もれて見つからず、3ヶ月間で2回以上支払いが滞ってしまったことがある。(CL17)

短縮版の11項目のスケールも同じ様にすべての項目を合計しますが、スコアは11（クレーターの影響が低い）から77（クレーターの影響が高い）の間で決まります。

目的

クラター・クオリティ・オブ・ライフ・スケール（CQLS）は当事者の視点から内省的または主観的に見たクラターの影響について調べるために作成されています。そのため、一般的に生活の質（QoL）と関わりのあるとされている大切な生活面でクラターが悪影響を与えている当事者の気持ちを確認することでその人のウェルビーイングを二次的に評価します。CQLSは基本的に生活全般の中で生活の質に与えるクラターの影響について当事者の気持ちを測定するもので、クラター・ホーディング・スケール（C-HS）のように第三者が観察して測定する場合とは極めて異なりますが、どちらのツールも人の生活に与えるクラターの影響について理解を深めるのに役立ちます。

スケールの開発

CQLS のスケールはニューメキシコ大学アンダーソン経営大学院准教授のキャサリン・ロスター博士[1]が、ICDのボランティア[2] の協力のもと開発しました。ロスター博士は、所有物の処分および自己同一性を果たすためのモノの使用を専門とする消費者研究者です。最終的にCQLSに取り入れられた項目は、米国成人1500名以上の消費者から得たデータを用いてスケールの開発調査を何度も繰り返した結果、原版の中から統計的に最も信頼性が高く有効であると判断された項目を採用しています。

スケールの項目

CQLS のスケールには18項目あります。クラターについて同意できるレベルを 1は「全く同意しない」、7は「強く同意する」というように、7ポイントのリッカート尺度の手法を用いて構成しています。クラターは「過剰な所有物」と定義されます。生活面には、1) クラターが及ぼす人間関係への悪影響、2) クラターが及ぼす家計への悪影響、3) クラターが及ぼす自宅や空間の「住みやすさ」や機能性への悪影響、4) クラターが及ぼす不安、罪悪感、絶望という気持ち全体への悪影響が含まれます。

スコアの付け方

スケールは、18（クラターが及ぼす生活の質への影響は主観的に見て低い）から126（クラターが及ぼす生活の質への影響は主観的に見て高い）の間の合計でスコアを決めます。混合グループ（例えば、クラターの問題がある人とない人）を対象にした事前調査では標準偏差値38ポイント、平均値59という結果が得られました。スコアを分類すると、18から53は生活の質へのクラターの影響は低い、54から89は生活の質へのクラターの影響は平均的、90以上は生活の質へのクラターの影響は高いと評価されます。